



電話が鳴っています。

受話器をとると女の人の声「：広島がやられたようですが、どんな状況ですか。」

私「何が何だかよくわかりませんが、全市全壊の様です。」

続いて、参謀の方が出られ「：時刻は：音は：市の状況は：。」

私「はつきりした時刻はわかりませんが、時計が八時十五分で止まっています。」

音はひとつ：全市全壊の様です。」

参謀「音がひとつだと：それで全市全壊：そんな馬鹿なことがあるか：。」

大きなとなり声が返ってきました。

齋藤美知子さんの体験記より

しまってはいけない

～ 体験記にみる被爆の実相 ～

期 間 平成17年4月1日(金)～平成18年3月31日(金)

展示会場 情報展示コーナー 開館時間 3月～11月……8:30～18:00
(8月は～19:00)
12月～2月……8:30～17:00

記憶

国立広島原爆死没者追悼平和祈念館企画展

入場無料



私は子供を抱いたまま川に落ちました。子供を高くあげ、「助けて下さい。」と頼みましたが、「その子は死んだら、あんただけ筏にあがってきんさい。」と警防団の人が云います。「子供は生きています。助けて下さい、助けて下さい。」やっとの事で子供は助けてもらいました。私は流れている材木につかまり死体の浮かぶ川の中で、浮き沈みしてやっと筏の上にあがりました。子供と横になり、大量の血を吐いて動けなくなりました。やがて黒い大粒の雨に打たれて子供は死んでしまいました。どうしてやる事も出来ず、只、抱きしめてやるだけで、「ごめんね。ごめんね。」と言うのがせいっぱいでした。

田辺イサノさんの体験記より



ました。

あの日から一ヶ月が過ぎた九月五日に、お浄土に参りました。姉も髪が抜け出した頃、自分はもう死ぬのかと思ったのか「日本が敗けたけど、これからどんな国になるか見たいよ」と言った言葉が、私の胸から離れないのです。

丹下泰子さんの体験記より

三和銀行のお友達で、草津のお方がお二人で、「岸さん無事だったと聞いて、喜びに来ましたよ」といって、遠路おいで下さいました。一晩中、嬉しさを寝るのも忘れて、話に花を咲かせましたが、其の朝から容態が悪くなり、お友達も喜びが不幸に代り、姉の最後の別れをして下さいました。

国立広島原爆死没者追悼平和祈念館企画展では、

被爆者が書いた体験記を紹介しています。

紹介できる体験記は、

当館が所蔵する膨大な数の体験記の

ほんの一部ではありますが、

これらの手記には被爆を直接、

体験した人だけが書くことのできる真実や心情が

したためられています。

被爆者は、これからの時代を生きる人のため、

特に、未来を担う子どもたちのために、

自分達と同じ体験をさせたくないという気持ちから、

薄らぎゆく記憶をたどり、

一言、一言、当時の悲惨な光景を思い出し、

涙とともに、その体験を書き綴っています。

惨状の生々しさを言葉で表現することの難しさは

被爆者が、その体験を書きしるす時の常です。

しかし、たとえ拙い文章の手記であれ、

人間の想像をこえた被爆の惨禍に真正面から向き合い、

ペンを持った被爆者の

悲しみ、苦悩、怒り、そして平和への願いが、

その文脈の底流にあることを、

体験記を読んで下さった方々に

感じてもらえればと考えています。

被爆者の「こころ」と「ことば」にふれて下さい。

【開館時間】

3月～11月……8:30～18:00 (8月は～19:00)

12月～ 2月……8:30～17:00

【休館日】 年末年始(12月29日～1月1日)

【入館料】 無料

【交通案内】

JR広島駅(南口)から(約20分)

・バス/広島バス吉島方面行で「平和記念公園」下車

・市内電車/紙屋町経由広島港(宇品)行で「本通り」下車
宮島口・江波行で「原爆ドーム前」下車

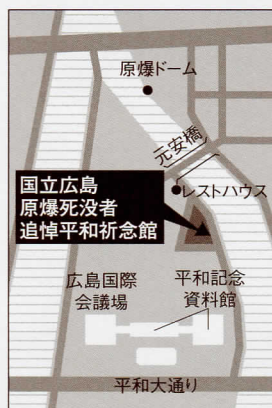
JR横川駅から(約10分)

・市内電車/広電本社前行で「原爆ドーム前」下車

【お問い合わせ先】

国立広島原爆死没者追悼平和祈念館

〒730-0811 広島市中区中島町1番6号 TEL:082-543-6271 FAX:082-543-6273 ホームページ: <http://www.hiro-tsuitokinenkan.go.jp/>



当館では、被爆体験記と原爆死没者の遺影を収集し、公開しています。

企画展では、被爆体験記を中心に、当時の写真、関連する遺品などを展示し、原爆被害の全体像に迫ります。

被爆体験記や原爆死没者の遺影をお寄せください。ご遺族の皆様のご協力をお願いいたします。